平成23年（2011年）
東日本大震災　災害活動報告

宮城県仙台市若林消防団　団長　佐藤　守行

仙台市若林消防団は、市内の七消防団のうちの一つで仙台市の東部に位置し、太平洋沿岸から内陸部へ広がる田園地帯をはじめ中心部の住宅商業密集地までを管轄しており、面積は約50㎢、管内人口は12万９千人余で、六分団約400名の団員と積載車24台を擁している。

３月11日14時46分に発生した今回の地震はこれまでの常識をはるかに超え、およそ千年に一度の割合で発生すると言われる未曾有の大地震で、当管内では震度６弱を観測しこれに伴う津波被害により沿岸部の住宅地及び田園地帯をはじめ内陸部の住宅商業地域まで甚大な被害をもたらした。特に被害が大きい沿岸部の七郷の荒浜地区、笹屋敷地区と藤田地区、六郷の藤塚地区、井土地区、種次地区及び三本塚地区は壊滅的な被害を受けた。

地震後、各団員はそれぞれの機械器具置場に参集し、小型動力ポンプ付積載車で管轄区域をくまなく巡回広報した。特に大津波警報が発令された沿岸部を管轄する分団は、巡回警戒の他に、住民の避難誘導及び避難者の救助に全力を尽くした。一方、中心部を管轄している分団では、住民が避難している避難所等へ市民センターやコミュニティー防災センター等から毛布やストーブ等の避難者が必要としている資材の搬送を実施した。津波が納まった後は、沿岸部を管轄する分団では津波被害の無かった水防倉庫から組み立て式ボートを搬送し、助けを求めている住民を多数救助した。

その後、自衛隊、警察、若林消防署とともに行方不明者の捜索に合同で当たり、田畑、川、用水堀、沼と言った場所から津波により流された住宅や車両等を掘り起こしての水と瓦礫との戦いによる懸命の捜索活動が現在でも続いている。

津波により町全体が流された状況

５月末現在の当消防団管内の被害状況は、死者321名、行方不明者29名で、この内、消防関係の活動状況は、救助人員453名、避難誘導2,445名、遺体発見189体となっている。また、当消防団関係の被害状況は、殉職者１名及び負傷者１名の人的被害

住民が多数避難した荒浜小学校

津波にのみ込まれた小型動力ポンプ付積載車

瓦礫の中での検索活動を実施している消防団員

をはじめ、消防団活動の拠点である機械器具置場が8箇所津波により流されたり海水に浸かったりして使用出来ない状態になった他、小型動力ポンプ付積載車も7台が活動中に津波により流されたり、海水に浸かる等して使用不能となった。また、地震によっても機械器具置場が一部損傷したり小型動力ポンプ付積載車も車庫で損傷した。

この度の当消防団活動は、避難誘導、人命検索を初めとする全ての活動を出場団員一人ひとりがその場で判断し行動に移すという、これまで積み重ねてきた現場経験と訓練を最大限活かす中で行われたが、多くの団員が自ら被災者であるという厳しい現実にもかかわらず、地域を背負って住民の命と暮らしを全力で護る懸命の消防団活動であった。

また、迫り来る津波の中にあっても数多くの団員が住民を避難誘導し、中には足元に迫った津波でも一人ひとりの住民を背負い、手を握りながら高台に避難させた団員も多くおり、正しく命を懸けての活動だったと言える。

しかし、一人の若い団員が避難中の高齢者を幾度となく積載車に載せ避難場所を往復している最中、殉職させてしまったことは悔やんでも悔やみきれず、ご家族に謝っても謝りきれないほどの思いでいる。その命を懸けての使命をこれからの消防団活動の礎としていきたいと思っている。

最後に、これからも消防団活動は続きますが、今回の事案を検証するとともに、かけがえのない私たちが生まれ育った愛する郷土を取り戻すため、若林消防団員一同、一致団結し、多くの困難を乗り越え、邁進して行きたいと考えております。「仙台市若林消防団ここにあり」

検索活動をしている消防団員

アルミボートを使用しての検索活動